



写真2>赤はエネルギーの高い色彩の為、広範囲に用いると空間のエネルギーが高くなりすぎるので注意が必要です。写真のように、床や壁などは落ち着いた色彩をベースとし、家具や床の一部にアクセントとして赤い色彩を採用することで、バランスのとれた空間を構成することができます。

写真3>赤をベースカラーにした宝飾店の内装デザイン。壁の四角いグリット形状部分は、柔らかい布素材で構成されており、エネルギーの高い赤色を広範囲に用いる為に工夫されたデザインとなっています。写真4>オレンジ色と黄緑色の2色をアクセントに用いたオフィス執務空間。見る角度によってアクセントカラーが変わり、視覚的な変化をもたせることで空間のエネルギーを高めています。写真5>明るいすっきりとしたサロンスペース。寒色であるブルー系統の色彩は、脳を沈静化させ集中力を高めてくれます。パステルカラーを用いることで、アクセントカラーに寒色を用いても温もりを感じる空間となっています。写真6>オレンジ色を企業のロゴサイン（看板）の面に用いたオフィスエントランスホール。ロゴマークの色に合わせた深みのあるブルーを壁のベースカラーに選定し、床と壁の木目を濃い茶色で統一することで、重厚感のある空間デザインになっています。



Feng-Shui Gallery

special edition vol.87

～風水デザインが空間にもたらす影響を、スペースごとに考える～

『色彩情報のある空間』

～アクセントカラーとベースカラー（オフィス・店舗編 vol.2）～



写真1>クリニックの待合室。アクセントカラーは壁の1面に用いることが多いですが、この写真のように、家具や額装（写真・絵）などにアクセントカラーを用いることでも同じような働きが望めます。濃い色をアクセントカラーに採用したい場合などに適しているデザインと言えます。

オフィスや店舗空間にも、アクセントカラーを用いることで
空間に良い影響を与えることができます。

執務室・会議室・店舗の場合は業種と、その空間の役割を考慮して
それぞれに適した色彩を選定することが大切です。